

東北・福島応援企画 座談会

福島県への教育旅行 みんなの力で元気に

福島観光は、2011年3月11日の東日本大震災とそれに伴う福島第一原発事故から3年が経ち、元気を取り戻しつつある。NHK大河ドラマ「重臣の効果」もあって一般観光客の需要は回復してきているが、対して中学、高校などの教育旅行の実施数はいまだに数えるほしくはない。その課題の解決に向けて、受け入れ側である福島の観光関係者、送客する側の大手旅行会社の教育旅行担当者に、福島の教育旅行を元気にするためには何が必要かを語り合っていた。

(東京・池之端の観光経済新聞社本社で)

——(司会)編集部・板津昌義 福島県への教育旅行の現状を聞きたい。
渡辺 福島県の教育旅行の入込数は、2007年度のピーク時は延べ宿泊人数が約74万7千人で、教育旅行の受け入れ県として自負してきた。震災前の10年度が延べ宿泊人数、約67万3千人で(震災直後の1年度が13万9千人と、20％程度まで落ちこんでしまった。12年度は約24万人まで回復してきたものの、10年度をベースとすると36％程度



渡辺氏

で、まだまだ回復には至っていない。宿泊内訳を県内と県外に分けた場合、10年度をベースとすると比率は県内が24％、県外が76％と断然県外が多い。11、12年度は県外の比率が60％台と落ち込んでいる。なかなか風評被害の払拭につながっていないのが現状だ。13年度の誘致活動の柱として震災前、本県に教育旅行で来ていただいた東京、千葉、埼玉、九州地方などを中心に各地へ年9回の誘致キャンペーンを



湯田氏

行った。
2月の九州地区のキャンペーン活動では震災後、福島県を訪れていた福岡県、鹿児島県の学校を御礼の意味も込めフラガール2人にも同行してもらい、被災時の経験を話したりフラダース教室を行ったり大変好評だった。この学校交流の様子は地域の各メディアにも数多く取り上げられていった。現状として九州地方からのスキーを中心とした修学旅行は震災以前の10年度は36校あったが11年度、12年度はゼロ校。13年度は12校に回復している。

みなみやま観光は南会津町の100％出資の第三セクターの観光会社で、南会津町にお客さまを誘致している。教育旅行は修学旅行、林間学校、合宿、キャンプ、冬のスキー教室などオールシーズンで取り扱っている。なかでも町を挙げて推進しているのが修学旅行や林間学校で農家に泊まる農村生活体験だ。この農村生活体験が震災以前の状況に戻らないと実際に教育旅行が復活したとは言えない。地域の経済波及効果が大いにかつた。

湯田 福島県は浜通り、中通り、会津とありますが、私たちの旅館は中通りの二本松市岳温泉にあり、陽日の郷あづま館「東三番館」の2館体制で営業をしています。あづま館はどちらかというところ、修学旅行は東三番館でメインに今まで受けていました。岳温泉は磐梯朝日国立公園のなかにあり、車で10分以内にある高層スキー場があります。ということから教育旅行はスキー目的が主で、しかもそのほとんどが九州方面から。震災前は、鹿児島などから泊3日のスキー合宿で延べ7千人近い学生を受



鈴木氏

末にかけていろいろなメディアで紹介され、だいぶ予約が増えました。昨年、高校の修学旅行が一度、先生の中で決まったことがあったが、父兄会で大反対があつて、結局ほかの地域に行ってしまうことがあつた。父兄の反対が一番大きいと聞いたので、これからも地道にやっていくしかない。

佐藤 当社も多くの学校が福島に行っていたが、震災でほとんどなくなってしまったので、これからは福島に戻ってもらうことが課題だ。

佐藤 九州から高校修学旅行を福島へ誘客することで一番ネックになっているのが、足の問題と放射線の問題だ。この前あるセミナーで実際に福島県を回ってもらった校長先生の話の中でも、一番のネックは保護者への福島県における放射線の正確な説明問題だった。福島県前には環境省と県がつ

けてしまったが、震災後は残念ながら現在もゼロ。しかし、本体のあづま館全体は震災前の約8割まで戻ってきています。
スキー場については現在、県内の小中学生のスキー教室は入ってはいけません。県外客がいない。県内客では付帯的なものがなく、岳温泉に対する経済効果は非常に薄いものがある。これから岳温泉全体としてどうやってスキー合宿を含め、その他の合宿を誘致するかが課題と見えます。

湯田 ハワイアンズは福島の浜通りというところで震災の影響が一番大きく受けた。3・11の後、もう一度4月に大地震があり、プールなどの施設が1軒近くも傾いて、営業を再開できるのかというところまで迫り込まれた。その中で激励の電話や手紙をもらい、ハワイアンズがオープンしたときに全国を回って歩いた歴史もあり、そのお礼の意味も込めてダンサーたちを連れて10月のオープンまへ全国にキャンペーン活動をした。その効果もあって、オープン当初はさほどではなかったが、年

るつか。会津若松市からハワイアンズまで行のは、限られた旅行時間の中でなかなか難しいのではないかと。福島県では、教育旅行で福島を予定している学校に対して、災害が起きても万全の態勢で受け入れできるように強いメッセージを出せると良いのではないかと。例えば、特に震災後の受け入れ施設での防災の基準がこうなっている。だから、安全、安心だ。そういうことをいち早く被災地である福島県からアピールすることが大きなメッセージになるのではないだろうか。

福島が抱える問題を教育現場に伝えたい 鈴木氏

「震災」の先に売れるツアーも検討中 酒井氏

る話を、うちに学生が来た場合は例えは津波のこんな話をするといいと、いろいろな商品化を進めている。ハワイアンズでは、どのようにお客さまを避難させるかといった危機管理の話をしている。この前、高校が来た時には、地元の人たちを招いて、グループディスカッションでいわき市の状況、住民の気持ちを生徒にいろいろ話した。そうやって少しでも福島を感じてもらえればと今やっている。

渡辺 福島県は北海道、岩手県に次ぐ全国第3位の広い県土を有し、浜通り、中通り、会津と気候、風土もそれぞれ異なる。文化や人々の気質も違う。そのなかでさまざまな体験学習や自然学習、スキー体験などいろいろなものができているのが、一つの大きな強みだ。

渡辺 我々としてできることは、着地と発地の考え方があるが、福島を中心にした東北にでも来ようとお客さまに対するキャンペーンを九州などで毎年2回ずつ行っているところだ。修学旅行関係は特に九州からの送客がぐんと減った経緯があるから、宿泊施設の方にも同行をお願いして昨年11月にキャンペーンを九州管内の全支店を回り、教育旅行誘致のための現状の報告と今後の対応を話していた。

もう一つは企画書の提案だ。学校の趣旨と違っても、学校にいろいろな機会を通じて、今ある素材や震災がで

つづきの「産業総合研究所」から分断して設立される。国として「再生可能エネルギーの福島県」にもついていると、いろいろな商品化を進めている。風力発電所も布引高原にできている。太陽光、地熱、水力発電所などもある。プロジェクトでは、そういった福島にない体験できないプログラムを開発することで福島に

酒井 教育旅行に関する福島の魅力や強みは何か。
渡辺 福島県は北海道、岩手県に次ぐ全国第3位の広い県土を有し、浜通り、中通り、会津と気候、風土もそれぞれ異なる。文化や人々の気質も違う。そのなかでさまざまな体験学習や自然学習、スキー体験などいろいろなものができているのが、一つの大きな強みだ。

酒井 教育旅行誘致のための現状の報告と今後の対応を話していた。

もう一つは企画書の提案だ。学校の趣旨と違っても、学校にいろいろな機会を通じて、今ある素材や震災がで

福島県だからこそ学べる素材を生かす 渡辺氏

南会津で地元の人との交流を深めて 湯田氏

P.T.A連合会や校長会でアピールを 河上氏



河上氏



酒井氏

め課題は。
河上 福島県は浜通り、中通り、会津はまったく違う。それぞれの地域が特徴を持っている。それが福島県全体でこれぞ教育旅行誘致をしていくことがこれが必要だろう。三つの地域の中でどこが誘致の軸になるのだろうか。この三つの地域のバランスは。あるいは思い切ったシフトをするのであ

るつか。会津若松市からハワイアンズまで行のは、限られた旅行時間の中でなかなか難しいのではないかと。福島県では、教育旅行で福島を予定している学校に対して、災害が起きても万全の態勢で受け入れできるように強いメッセージを出せると良いのではないかと。例えば、特に震災後の受け入れ施設での防災の基準がこうなっている。だから、安全、安心だ。そういうことをいち早く被災地である福島県からアピールすることが大きなメッセージになるのではないだろうか。

佐藤 九州から高校修学旅行を福島へ誘客することで一番ネックになっているのが、足の問題と放射線の問題だ。この前あるセミナーで実際に福島県を回ってもらった校長先生の話の中でも、一番のネックは保護者への福島県における放射線の正確な説明問題だった。福島県前には環境省と県がつ